

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・地域の利用者様が地域で馴染みの関係を保ちながら、安心して生活ができるような理念を作成した。</p> <p>・職員全員とご家族で利用者様を「その人」としてありのままを受け入れ、施設の中だけでなく、できるだけ地域とふれあい、利用者様が「自分」を表現できるようなことを理念としてある。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>折に触れ、職員に理念の重要性を意識づけ、サービスの提供場面で活かされているか確認しながら日々頑張っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には入所時、面会時等、利用者様の状況を話しながら、折に触れ伝えている。</p> <p>地域の会合や老人会等機会あるごとに事業所の役割や実践など伝えている。</p>	<p>○ 各種団体との交流会・地域への広報誌を届けたい。家族へのホーム便りを2ヶ月に1回発行している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・散歩や買い物しながら近隣の方々と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。</p> <p>・畑で取れた野菜や釣りたての魚、出荷後の花などの差し入れが多く、その方たちとの世間話が又楽しい。差し入れされる方々も立ち寄るのが楽しみのようなのである。</p>	<p>○ 定期的に「講話」など近所の方々と楽しくできる時間作りをしたい</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域懇談会や老人会、区の行事等に参加している。</p>	<p>○ 近隣の小学校で月水金の3日間は幼稚園児との朝の挨拶を、利用者様と一緒に参加されている。</p>

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小学校、幼稚園児と朝の挨拶と交通安全の見守りを利用者様と一緒に実施している。 ・区の老人会や会合などに行き「認知症ケア」の啓蒙に努めている	○	キャラバン隊の育成に努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	はじめての自己評価と外部評価なのでしっかりと受け止め、より邁進していきたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・推進会議ではいろいろな意見が出たりするため、サービス向上に迅速に対応できている。	○	・2ヶ月に1回運営推進会議を行っている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村の健康福祉課及び包括支援センターと、折に触れ現状を報告したり、意見交換をしたりしている。	○	各区で認知症の勉強会を包括支援センターと協賛で行いたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・制度は知っているが、活用の仕方等まだまだ理解していないので、早い時期に勉強会を持ち利用者様の支援に役立てたい。	○	村社会福祉協議会と協賛して勉強会を持ちたい。 H20.7.3(木)に勉強会を持ちます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・抑制の禁止や言葉のかけ方、話し方、関わり方には職員間で確認しながら予防策に努めている。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に確認し、それ以外でも再度、不安点や疑問点などところはないかどうか、いつでも相談してくださいとお伝えしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、外出時、外泊時、ご家族の方へ「本人さんの話をよく聴かれ、不満な事や要望等が聞けましたらいつでもご相談ください。」とお伝えし、その都度対処するよう努めている。	○ ご意見箱の設置をしてある
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・面会時、外出時、外泊時、折に触れ状態や暮らしぶりを報告している。・状態に変化があった時、誕生日等には、電話でお伝えしている。・本人が電話対応できる方はさせている。・施設便りを定期に送っている。	○ 「にじのいえ」便りを2ヶ月に1回出している
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えたときには、出きるだけ意見を聞くようにしている。そして都度対処するように心がけている。	○ ご意見箱を設置してある
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別面談をして多く意見を聞くように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度話し合い、調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個々に合った対応で利用者様にはお伝えしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・認知症に関する勉強会 ・薬について ・記録について ・認知症ケアのスキルアップ研修等	○ 県の研修、施設内研修を計画する
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特養の小規模多機能の職員と交流しお互いに意見交換をしている。	○ 定期的に交流会を計画したい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・個々に合った対応で話を聴いたり、問いかけたりしている。	○ 休憩場所を設けたいと思っている
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・本人の努力や実績はその都度激励したり、方向付けしたりで話し合っている。 ・職員の個々の意見は業務に反映させていくようにしている。	○ 手当等の充実に努力していきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・出きるだけ本人と向き合う時間を多くして、話を聴くようにしている。 ・いつでも声かけやスキンシップする事で利用者様からいろいろな事が聞かれるような努力はしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	機会あるごとに話を聴き、それをきちっと受け止める努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・「今」必要としている事を捉えるよう努力している。 ・体験入所		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・体験入所		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の好きな料理を聞きメモしたり、手順を聞いたりする。 ・料理を作った後、味見をしてもらったりする。 ・洗濯物たたみ、モヤシつくろい、葉野菜摘み・おわん洗い、テーブル拭き等を一緒になって行い、終わった後のお茶を飲む時間の共有		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時、外出時、外泊時等の利用者様の喜んだ状態を伝え、又職員も喜びや感謝の言葉をそえるようにしている。	○	家族会を年2回程持って行きたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・利用者様が作った作品や計算問題、塗り絵等を見てもらい、ご家族に褒めていただくことにより、ご家族や本人様の絆が深まるし本人が頑張っておられる事を理解していただく心がけている。・本人が行ってみたい身内のところへの訪問・面会時等本人様とご家族の心のかけはしになるよう心がける。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人様がお元気の時から馴染みの関係にある美容院や美容院との継続利用。 ・友人への電話や訪問をして、いつでもお互いの存在感を維持できるよう心がけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・散歩しながら、車椅子を押してもらったりする。 ・隣の席は誰であるかを伝えるようにしている。 ・食事のとき皆揃って、いただくように心がけている ・テーブルの席は出きるだけ気の合うもの同士一緒に席にする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・入所時や退所時には、「いつでも応援していますので、困った事や相談事がありましたら連絡ください。」と伝えるよう心がけている。 ・時々状態を知る為に電話したりする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とじっくり話したり、ご家族からいろいろな情報を聞くことにより本人が何をされたいのか、どんな生活をされたいのかを把握するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人やご家族の方あるいは本人をよく知っている方の来所時、話を聞き把握するようにしている。 ・在宅でサービスを受けていた方はケアマネージャーより情報を頂いたり話を伺ったりするよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・本人の生活のリズムを把握すると共に、動きやちょっとした仕草からでも感じ取れる様、全体像を捉えていく。 ・本人の現状から精神面、身体面、社会面、生活面、出きる場所から支援するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の現状を本人はもとより、ご家族、職員、関係者と随時話し合い、意見交換をし模索しながら、介護計画を作成している。 ・ご家族の来所時、食事のとき、ミーティング時、記録時に情報をいただくよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・変化があった時の話し合いやケアの対応は早いですが、計画作成が遅れたりする場合があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者様の一日の状態を記録し、その中から新しい発見をしたり、工夫を考えたりして展開を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・急変時や定期受診等に家族と一緒に医療機関に情報提供したりして本人やご家族の安心と安全に心がけている。	○	ドクターとの定期カンファレンスを計画中
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・利用者様の生きがい作りや役割を提供する事で本人らしさが活かされる。	○	近隣の小学校、幼稚園と協力して、朝の挨拶運動を展開している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・定例会があり、そのとき情報交換やその他のサービス等で話し合いを持っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に集まりを持ち、意見交換や指導をいただくように努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族のみで受診される場合には、状態をきちんと伝えたり、文書で状態を提供したりして、Drとの連携にも努めている。 ・Drからの指示は職員で共有し利用者様を支援している。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・医療連携機関にて、認知症の診断や治療を行っている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・日ごろから気軽に話し合ったりしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・連携病院のケースワーカーと情報交換や相談等を行い、利用者様がいつ入院や退院してもスムーズに行くよう連携している。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・「死」を「大変なもの、怖いもの、触れないようにしたい」のではなく、「尊いもの、逃げない心、生にありがとう、死によるしく」と利用者様が向き合えるような方針を掲げ、心の支援に力を入れていきたい。</p> <p>・日頃から、利用者様、ご家族、かかりつけ医、職員等とさりげない感じで話したりしている。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・チーム体制作りが必要</p>	<p>○</p> <p>・協力医療機関のDrや訪問看護婦と連携しながら、個々の利用者様が安心して自然の形で終末期を迎えられるような体制作りをしておきたい。</p> <p>・訪問看護の経験を活かし、ご家族、スタッフと協力して「死」を輝けるものにしたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・これまでの情報提供や本人の心理面を配慮した対応を提供していく事により、ダメージを防げるものと思う。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員間同士、言動や対応を指摘しあい、協同して支援するよう努めている。 ・おむつ交換時、トイレでの排泄時、ポータブル便器使用時、入浴等には細心の注意を払うよう心がける。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・日課を伝え、どういう風にされたいか確認し、一緒に考える時間を工夫するよう心がけている。 ・自分でいえない方は、仕草や表情を汲み取るような配慮をしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人が休みたいと言え、寝かせてあげるし、読み物を読みたければ部屋でもリビングでも可能で、自分の好きなスタイルを持って生活されている。ありのままの過ごし方を支援する。 ・職員のペースに合わせないのをモットーとしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・自分で出きる方は声かけし、出来ない方は、ブラシと鏡を準備して本人に持たせ、髪をといってもらったりする。それでも出来ない方は、話をしつつ一緒に更衣や髪をとかしたりする。 ・理容、美容は馴染みの店でやってもらっている。 ・外出、外泊、買い物、受診、行事等のときは本人の好きな服にする	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物してきた材料の下準備を一緒につくろったりする。自分たちで下準備して出来た食事は格別なようで喜んで食される	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・月に1～2度晩酌したり、行事のときは1杯飲んだりされる。 ・お粥、きざみ食、ミキサー食、アンパン、カレーは嫌い、麺は嫌い芋が食べたいといろいろ話、自分が言った物が出ると嬉しそうです。	

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・いつでも本人が要望されるときはさせている。最後には職員が感謝の言葉を伝えている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族、知人、友人等、本人の馴染みの方たちが見えると、部屋を整えテーブルを置き、椅子を並べて、皆さんがゆったりと楽しく過ごせるような環境を、提供するようにしている。その後「お茶をどうぞ」と一言添え、お帰りのときは、「ありがとうございました。又是非おいでください」と伝えるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・「人」として関わるからには、身体拘束は絶対しません	○	ミーティング等で「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の読み合わせを行い、職員と共通理解をする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・夜のみ鍵をかける。日中は鍵なしで生活されています。 ・部屋にも鍵は着いていません。 ・外に行かれる方は、さりげなく声かけし、一緒に出るか、そのまま様子を見るかにする。(コース、距離、仕草、場所などそっと見守る)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・夜間は1時間おきに巡視して利用者様の状態把握に努めている。・利用者様がおきられた時すぐ傍に行き対応している。休憩もリビングで休み、絶えず利用者様の安全に配慮している。・日中は、リビングで記録等や他の手作業をしながら、さりげなく利用者様の状態を把握し、いつでも視野に入れておくよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・注意の必要な物品の保管、管理を職員で話し合い整理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・利用者様の状態等から起こりうる事故等を想定しながら話し合い出きるだけ事故がなく又未然に防げていけるよう配慮している。・誤嚥予防にミキサーにとろみをつけたり、履物ではできるだけすべりにくいもの、ベットの傍に滑り止めつきのマットを敷くなど。・事故やヒヤリハット時の報告・記録をして再発防止に努めている。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・年に1回の応急手当の研修会を消防署で受けているが、事業所で定期的に計画して習得するよう努めなければいけないと思います。・夜間時の緊急対応のマニュアルや連絡網の周知を把握できるよう努めている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・連絡網や連絡方法の仕方を職員が見やすい場所に張っている。・年1回消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の取り扱いなどの訓練を行っている。・地域の協力体制は、区長さんを中心に連絡し、区より放送にて区民全員に連絡が行き届くような体制が出来ている。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・利用者様にのびのびとした生活をさせたいとの事念頭に置き、鍵の件や拘束、その他のリスクについてご家族には随時話すようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・いつでも体調の変化、特に顔色、食欲、排泄、水分量、手足のむくみ、目つき、言葉、歩行等細かく異常サインを把握するよう努めている。 毎朝のバイタルチェックの把握 ・異常が見つかれば、職員間で共有し様子を見て判断し、緊急対応に努める。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬は職員が管理し、食事の時には、自分で服薬できる方、出来ない方を把握し、それぞれの対応をしている。 ・薬の作用等を把握する為、処方箋は個別にファイルして、いつでも職員が確認できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食時には、繊維性の多い食材がよく使われている為、利用者様は殆ど便秘解消されています。自宅では、浣腸をずっとしていた方が、1ヶ月ほどでよくなっています。 ・適度の運動や腹部マッサージ、水分、乳製品、芋など予防が必要		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声かけや介助を行い、就寝時には、洗浄剤に着け置きをしている。		

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立表に準じ、個々にあった食事作りに努めている。 ・水分は、ボトルに水を入れ、個々の名前を書いてテーブルにおいて声かけしながら飲ませている。	○	村の栄養士と定期チェックを検討中
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症発生の情報を早期に発見し、マニュアルを作成して職員全員で対策に努める。 ・インフルエンザは、家族と話し合いながら、家族、本人、職員共に予防接種を受けるようにしている。(うがい、手洗いの徹底) ・ノロウイルスは手洗いの徹底とハンカチの一枚拭きにて予防に努める。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理器具は乾燥機に入れて乾かす。 ・食材は新鮮なものを使用するように努めている。 ・職員は手洗いをきちんと行うようにしている。 ・まな板や布巾は漂白するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・利用者様を初め、訪問される皆様がゆっくりくつろいだり、見学されたり、お茶を飲まれたり出きるように、ベンチやプランターなどを置いている。 ・近隣の方たちが野菜や花、魚を差し入れの際の憩いの場所がある ・お客様がほっとするように花を生けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングに全員で作った折り紙を飾りつけて、楽しみを増やすよう努めている。 ・観葉植物を置いて、新鮮な空気の香りで心が穏やかになり、居心地よく過ごせる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用空間の中で、小さな居場所作りが出来そうな場所がない。	○	・廊下を利用して小さな図書室を作り、読み物が好きな方が増えればいろいろな事が聞けるし、利用者様の充実感も出てくる事を期待したい。

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に本人の写真や家族の写真、塗り絵等を飾り、いつでも楽しいとの感覚を待たせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・暖冷房は利用者様の状況にあわせて冷房、暖房、除湿等をこまめに調整する		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺が設置されていて、利用者様が安全かつ安心して過ごせるよう考慮されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・部屋のつくりが同じようなので混乱があり、部屋の前に表札をつけると安心して自室に入る事が出来た。 ・部屋にちり箱を置いておくと、バケツと間違え、排尿しており、ちり箱を置かなくなったら、排尿がなくなった。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダを利用した活動がまだない。検討中。	○	ご家族の方と相談しながら、個々にあった過ごしやすい空間作りを設けたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム 虹の家)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- すべての利用者様を家族以上に大事にしている。
- 小学校(近隣の)と連携して朝の挨拶運動を展開している。